

遺族「子どもも中心で考えて」

大川小の教訓 生かすには

東日本大震災の津波に襲われ、最も全滅であるはずの学校管理下で過去最悪の犠牲を出した宮城県石巻市立大川小の事故... 遺族らと教職員の命が奪われ、今も四人の児童が行方不明が続いている。



石巻市に位置する大川小。仙台市から約30キロ、太平洋に面している。

定期的な語り部イベントで、現地をめぐり、昨年だけで二千人以上、約五千人... 遺族らと教職員の命が奪われ、今も四人の児童が行方不明が続いている。



大川小を訪れ、手を合わせる研修参加者ら＝宮城教育大提供。被災校舎の瓦が崩れ、大川小の校舎が倒壊した様子。

東日本大震災を契機、文科省は「マニュアルがある」という前提で、マニュアル策定が97%と全国の小中高... 文科省によると、教職員の防災教育については、全国の小学校で約8割、中学校で約6割、高等学校で約3割が完成している。

マニュアル策定97% 全国の小中高

文科省によると、教職員の防災教育については、全国の小学校で約8割、中学校で約6割、高等学校で約3割が完成している。また、児童生徒の防災教育も進められている。

保護者への引き渡し 事前にルールが必要

伝承と防災強化へ教職員研修

東日本大震災では、保護者らに児童生徒を引き渡す際の指針が示されなかった。学校管理下で発生したケースも多かった。

児童生徒を引き渡す際には、事前にルールを定める必要がある。また、保護者への説明も大切だ。

東日本大震災の教訓を伝承し、防災強化を目的に、宮城教育大は山形県を中心に、宮城県内の小学校で研修を実施している。



旧大川小を訪れ、手を合わせる研修参加者ら＝宮城教育大提供。

平時の準備がより大切

防災教育に詳しい宮城教育大の小田隆史准教授は、震災後の学校の役割について述べている。

宮城教育大の小田隆史准教授は、震災後の学校の役割について述べている。平時の準備がより大切だ。